

平成22年度 県立土浦第一高等学校（定時制）自己評価表

No. 1

目指す学校像		豊かな人間性の涵養と人格の形成を図り、もって社会の発展に貢献し得る人間の育成を目指す。 教職員の共通理解の下、生徒一人一人のより高いレベルでの進路実現を目指し、地域社会の期待に応える進路指導を実現する。				
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況		
「重点目標」「具体的方策」の各評価項目において、どの分野・部署においても高い評価を得ている。 本校教育活動の一層の充実を図るための課題は、以下の通りである。 ・多様な生徒に対し、個に応じた指導や学習意欲の喚起を促す指導の工夫 ・個に応じたよりきめ細やかな進路指導 ・基本的生活習慣の確立と心の教育の充実 ・相談活動の一層の充実		基本的生活習慣の確立	①社会の一員であることを自覚し、責任ある行動がとれる人間の育成に努める。 ②校則をしっかりと理解させるとともに、積極的に学業に取り組む姿勢を育む。	B		
		基礎的・基本的な学力の定着	③一人一人の能力を把握し、個に応じた授業を行い基礎学力の定着に努める。 ④進学及び就職希望者の学力向上のための支援に努める。	B		
		進路指導の一層の充実	⑤3修3卒希望者への積極的支援に努める。 ⑥各人の希望に沿った進路実現に努める。	A		
		豊かでたくましい人間性の育成	⑦HR等で心の教育の充実を図る。	B		
		個別指導（面談等）の充実	⑧個別面談を通して個々の生徒理解に努める。 ⑨心の内面に届く指導に努める。	A		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
教科指導	基礎学力の定着を図る。	一人一人の能力を把握し、必要に応じて補習授業等を積極的に実施する。③	B	B	・生徒の現状を把握した授業展開を行う。	
	個に応じた指導の充実を図る。	観察、応答を通して、生徒の理解度、達成度を把握しながら授業を展開し、「読み」・「書き」・「計算」などの基礎学力の定着に努める。③	B			
		低学力の生徒から大学進学を目指す生徒まで、個々の学力・能力に応じた個別指導の充実に努める。④	B			
		小テスト等を実施し、生徒の理解度・到達度の把握に努める。③	A			
教科	国語	基礎学力及び学習意欲の向上に努める。	漢字力テスト（月1回）の実施を通して、漢字力の向上に努める。③	A	A	・漢字（語彙）力の定着を図るため、漢字を中心とした小テストを実施する。
			語句の意味を調べ、ノートにまとめることで語彙力を身につけさせる。③	B		
			生徒の興味・関心や共感のもてる教材を選択し、噛み砕いた授業を展開する。②③	A		
			定期テストの結果を踏まえ、学習理解の定着が不十分な生徒については補習を行う。③	A		
	地歴公民	基礎学力の向上を目指した指導の充実を図る。	不登校等により、基本的な内容の理解が全くできていない生徒が多い状況を踏まえ、進度を抑え気味にするとともに、他教科の内容なども含めた基礎からの学習を心がけ、高校生の履修内容にふさわしい程度にまで理解を深めるようにする。③	B	B	・基礎学力の向上を果たす生徒が一人でも多くなるよう努める。
			4年間担当することを前提に、各科目の関連性に着目しつつ、地歴と公民の両教科の包括的な理解を目指す指導を展開する。③	B		
	数	基礎学力の向上を図る。	基本的な内容を十分に時間をかけて指導する。③	B	B	・基本的な内容に十分時間をかけて基礎力の定着を図る。
			知識を確かなものにするためにプリントで問題演習をくり返し行う。③	B		
授業終了5分前にその日の学習の理解度を把握するために基本的な問題を出して、ノート提出させる。③			B			
始業前に希望生徒対象に課外をする。④⑤			B			
	学習習慣の定着を図る。	ノートを定期的に点検し、ノートを取る習慣づけをする。②	B			

教科	理科	基礎学力の向上を図る。	漢字の書けない生徒や、割算や分数の計算などのできない生徒へも必要に応じて援助する。 ①③ A	A	・入試や就職試験に対応した指導を充実させる。
			体験的な活動を充実させるために、実験を多く取り入れる。 ③ A		
			ノートを定期的に点検し、学習の理解を把握する。 ③ A		
	進学や就職等進路希望に対応した指導の充実に努める。	入試や就職試験などの必要に応じて、課外、個別指導等を実施する。 ④ B			
保健体育	生徒の実態を踏まえた指導計画の充実に努める。	年齢層、能力差の大きい定時制生徒の実態を踏まえた、調和のとれた弾力的な年間計画にする。 ①③ A	B	・年齢や能力に合わせた教材の工夫をする。 ・個々に応じた運動量の確保に努める。	
		運動の楽しさやできる喜びを味わわせる指導の工夫を図る。 ② B			
		保健学習における内容の重点化と単元指導計画の工夫・改善をする。 ④ B			
	豊かなスポーツライフの実現を図る。	互いに協力し練習やゲームを通して体力・能力を高め生涯体育につなげると共に、コミュニケーション能力を高める。 ⑦ B			
		学習の効率や安全性を高める集団行動の指導を徹底する。 ①② B			
健康の実践力を培う。	課題学習やライフスキル教育等、多様な体験的・実践的学習方法の活用や受け身にさせない自主的・自発的学習の促進。 ⑦ B				
	自らの健康を適切に管理、改善する実践力を培う保健学習の充実に努める。 ⑦ B				
芸術	基礎的・基本的な内容の定着と、創造的な能力を育てることに努める。	個に応じた丁寧な指導をする。 ②③ B	B	・教材の充実に努める。	
		さまざまなジャンルの音楽会・展覧会を紹介する。 ①③ B			
	実践的・体験的な活動に主体的に取り組む。	新聞記事から豊富な話題を提供する。 ⑦ B			
英語	基礎学力の向上に努める。	ドリル・小テストなどを行い、レベルを確認しながら段階を上げていく。 ③ B	B	・基礎学力の向上に努める。	
		始業前、放課後課外学習や課題添削を実施する。 ⑦ B			
		ノートを定期的に点検し、授業への取り組みを確認する。 ③ A			
オーラルコミュニケーションの活用に努める。	ALTとの積極的な交流を図る。 ④ B				
	普段から日常での会話に英語を積極的に利用する。 ①③ B				
家庭	授業内容の充実に努める。	授業内容を精選し、教材や指導方法を工夫する。 ③ B	B	・意欲的な取り組みが更に行えるように工夫する。	
	生活技術の向上に努める。	実習の時間を出来るだけ多くし、意欲的な取り組みを図る。 ① B			
情報	基礎学力の向上に努める。	ブラインドタッチを徹底させた授業を展開する。 ③ B	B	・更なる技量向上を図る。	
		文章入力の小テストを繰り返し実施し技量向上を図る。 ③ B			
商業	資格取得希望者の合格率向上に努める。	検定問題や入力テストを積極的に利用する。 ⑥ B	B	・簿記検定全員合格を目指す。	
		課題学習の内容を精選し、教材や指導方法の工夫をする。 ③ B			

庶務	P T A活動の充実を図る。	保護者に学校行事等への積極的な参加を呼びかける。 ⑧	B	B	・PTAとの協力・連携を図る。
		P T A総会，授業参観等への出席率が上がるように呼びかける。 ⑧	B		
教務	授業時間の確保に努める。	授業の開始時間を厳守する。 ①	A	A	・行事の性質上実施時期曜日に偏りが出てしまうため，行事の精選に努める。
		教科・科目の授業時数のバランスを図り，学校行事が特定の曜日・時間に偏らないようにする。 ①	B		
	道徳教育の推進を図る。	必修科目「道徳」の推進を図るため，教材等を十分に検討する。 ①	A		
特別活動	学校行事等を積極的に行い，生徒会活動の充実に努める。	生徒会役員を中心に生徒主体の行事を実施し，親和的な学校の雰囲気醸成するとともに，自治的精神を涵養する ⑧	B	B	・生徒会行事や部活動の活性化に努める。
		ミルクサークルの輪を通じてボランティアの精神やリサイクルの大切さを体験させる。 ①②	A		
生徒指導	課題を明確にした指導体制の充実に努める。	実態を把握した生徒指導体制づくりをする。（共通理解から共通実践へ） ①②	B	B	・登下校時の声かけを強化する。
		巡回・巡視活動を通して，問題行動等の未然防止と解消を図る。 ②	A		
	日常生活上の諸問題を生徒自らが解決する取り組みの充実に努める。	好ましい人間関係づくりと自己抑制能力を身に付けるための取り組みの活性化を図る。 ⑦	B		
	連携・協力して問題を解決する体制づくりの充実に努める。	いじめ，不登校，中途退学，暴力行為等の問題行動等を生徒自らが解決する活動を支援する。 ⑦	B		
		教育相談体制を確立する。（個に閉じこもる生徒への声かけ） ①	C		
保護者，地域社会と信頼関係を構築する。 ⑧		B			
	教職員間，学校と家庭，地域社会，関係機関との情報交換の推進と協力連携の強化も図る。 ⑧	B			
進路指導	個に応じた多様な進路指導の充実に努める。	進路説明会の実施：全校生を対象に就職・進学などの進路に応じ，説明会を実施する。 ④⑤	B	A	・より一層の進路指導の充実に努める。
		進路意識の涵養：折に触れて進路意識の涵養に努める。 ⑥	A		
		具体的進路実現に向けた支援：個々の生徒の進路実現をより具体的に把握し，HR担任と連携しその実現に努める。 ⑥⑧	A		
保健給食	心身の健康に留意し，規則正しい生活促進に努める。	「保健通信」（月一回発行）を通し，風邪やインフルエンザ等学校伝染病の予防対処法を徹底する。 ①	A	A	・手洗いやうがいなどの感染症予防を徹底する。
		心身の悩みに関してはその都度適宜相談に応じる。 ①②	A		
	学習環境の安全と衛生に努める。	清掃の徹底を心がけ，美化意識を高める。 ②	B		
給食での衛生・マナー指導の更なる向上を図る。		安全迅速な避難経路の作成と防災訓練の実施。 ②	A	B	・生涯に繋がる食育教材の工夫をする。
		毎食ごとの手洗いの実施をひき続き行うと共に挨拶の奨励を実施する。 ②⑦			
第1学年	定時制生活への早期転換への支援に努める。	定時制の特性等をオリエンテーション等にて早急に理解させる。 ①②	C	B	・生徒一人一人と関わる時間を更に増やし，生徒理解に積極的に努める。
		生活実態調査や生徒面談，保護者との密な連絡等を積極的に実施し，生徒の情報収集に努め，生徒一人一人の生活環境等を把握し，生徒理解に努める。 ①②⑧	B		
	望ましい学級集団づくりに努める。	生徒一人一人に積極的に関わり生徒との好ましい人間関係をつくる。 ②	B		
		生徒一人一人の意見や考えを尊重し，協力し合う楽しく明るい活気ある学級集団づくりに努める。（個性の理解） ①	B		
	基本的な生活習慣の確立と豊かな人間性の育成を図る。	集団生活の中における個を理解させる。 ②	仲間とのかかわり合いの中から相手の立場になっての思考（思いやり）やトラブルや葛藤，つまずき等を乗り越えるたくましい心の育成に努める。 ②		
社会人としての知識や技能（礼儀・マナー・言葉遣い）を身に付けさせる。 ①			C		

第2学年	自己実現を図るための基礎学力の向上に努める。	年に10回実施する漢字力テストを有効活用し、努力することの大切さや必要性を理解させる。③	B	B	・生徒本人の適性、学力に応じた進路選択をさせる。
	進路指導の充実に努める。	三者面談を行い、生徒、保護者の希望を確認し、よりよい進路実現を目指す。④⑤	B		
第3学年	自己の適性を見つめ、適切な進路選択を図る。	面談を通して本人、保護者の希望を確認し、本人の適性にあった進路を選択させる。④⑤	B	B	・生徒の適性に応じた進路実現を図る。
	家庭との連携に努める。	大学進学希望者には模擬試験の受験を促し、学力にあった進路を選択させる。④⑤	A		
		保護者を含めた三者面談を年1回必ず実施する。②⑦	A		
第4学年	進路意識を涵養し、最善の進路実現を図る。	遅刻や欠席の多い生徒には家庭への連絡を密に行い、協力を依頼する。①②⑦	B	B	・基礎学力を定着させることにより、入学試験や就職試験の合格に繋げる。
		個人面談や普段からの働きかけにより、生徒が進路意識を高め、最良の進路選択を実現することができるよう指導する。④⑤	A		
	基礎学力の向上に努める。	漢字力テストの有効活用と共に、進路実現のための基礎学力を定着させる。④	B		

評価方法 [A, B, C, D, Eの5段階で評価する]

- A・・・十分達成できている
- B・・・達成できている
- C・・・概ね達成できている
- D・・・不十分である
- E・・・できていない